北海道における
プロテスタント・
キリスト教史

Brush Up
Your
Presentation
Style!

文書作成と
表現の技術

伝える媒の技術

古典を読む

ニセコ・
フィールド
スタディ

インターンシップ

修学旅行の
企画を立てる

2024年度
教養深化プログラム

Cultural Enrichment Program

高度な専門知識を持った即戦力人材に成長

デジタル
クリエイティブ
基礎

科学と社会

不確実性との
向き合い方

キャリア
マネジメント
セミナー

キャリア形成

インターンシップ
事前準備

北海道学

デジタル
クリエイティブ
実践

研究の
フロンティアと
社会をつなぐ

2024年度

教養深化プログラム

教養深化プログラムは、民間企業・公務員・教員などへの就職を希望する修士課程および博士後期課程の学生を対象とする教育プログラムです。
大学院の専門教育で専門分野の研究をさらに深めるとともに、人文社会科学諸分野の総合的な学修および文理融合・学際的な学修を通じて、「課題を発見し解決する力」、「俯瞰する力」、「複合的に考え正しく伝える力」、「行動する力」を修得し、専門知識を実社会で役立てる実践力の向上を目指します。

プログラム申込み

対象学生	2024年度に大学院の修士課程・博士後期課程の在籍学生
定　員	なし（参加要件を満たせば誰でも参加できます）
申込み方法	専用フォーム （申込には指導教員の許可が必要です） https://forms.gle/iBMB7vrbAitpCUcb7
募集期間	2024年4月1日（月）～5月10日（金）

プログラム説明会

2024年
- 4月 4 日（木）12:15～12:45　【ハイブリッド】
- 4月10日（水）12:15～12:45　【対面】
- 4月12日（金）18:15～18:45　【ハイブリッド】
- 4月16日（火）12:15～12:45　【対面】

（詳細は申込者に案内します）
プログラムの内容や参加方法などを詳しく説明します。
（各回同内容）

●プログラム説明会には下記URLまたは右QRコードよりお申込みください。
https://forms.gle/zgoX8JTngD2gTdAt9

プログラム開講式

2024年6月7日（金）（詳細：後日連絡）
プログラム生全員が参加する開講式・ガイダンスです。
（変更・追加の情報は教養深化プログラムのWEBサイトをご確認ください）

教養シン化プログラムの世界へのいざない

【プログラム長】 加藤 重広　文学研究院 教授

本プログラムは大学院レベルでの教養の拡張・高度化・深化をめざす教育プログラムです。かつては，大学院と言えばアカデミア（研究職）への就職しか想定されていなかったのですが、現在は進路の多様化が進んでいます。文化施設や教育機関は言うに及ばず、民間企業や地方自治体などでも大学院修了の人材を求めているところが少なくありません。しかし、一方で、大学院を修了して働き始めても、周囲の期待する高度人材のイメージとのずれを感じるというケースをよく耳にします。専門以外のことも深く広く理解している人材像に自分を高めていくための、世界の扉を開けるために導くのが本プログラムの役目です。また、アカデミアでも、専門のみに沈潜して他の領域のことを知らないとブレークスルーの機会を逃してしまうことがあります。異なる知見を結びつけたところから生まれるシン発見、つまり、セレンディピティこそが学問の新しい地平を切り拓きます。アカデミアを目指す人も、セミ・アカデミアを目指す人も、ノンアカデミアを目指す人も、教養のシン化の世界をのぞいてみませんか。

【プログラム担当】 平川 全機　特任助教

頭をひねって問題を定め様々な方法を使って試行錯誤しながら探求し“答え”や解決策を発表する。そんな研究のプロセス。大学院だけでしか通用しないと思っていませんか。実はその力、専門やテーマは違っても社会のいろんな場面で必要とされています。教養深化プログラムは、大学院で身につく実社会でも役に立つ能力をさらに高めていくことを目指しています。授業だけではなく、さまざまな学びや交流の場も提供しています。大学院生のみなさん、教養深化プログラムで一緒に世界と未来を広げてみませんか。

【キャリア担当】 和田 肖子　特任准教授

キャリアの道は人それぞれです。大切なのは、キャリアパスを広く捉えて、その中で自分自身にあった道を選ぶこと。知らないと選ぶことはできませんよね。教養深化プログラムでは、社会とつながる実践的なプログラムにより、幅広い知識を学び、様々な分野で活躍するゲストの話を聞くことができます。どんな仕事でも役立つジェネリックスキルを高め、自分の強みを生かせるキャリアを拓いていきましょう。
個別相談では、相談者の方の希望や悩みに合わせて、具体的な就職支援から、進学についての相談も対応しています。悩みがあってもなくても、気軽にお立ち寄りくださいね。

■ キャリア支援

●キャリアセミナー

多様なキャリアをイメージできるよう、ロールモデルとなるような第一線で活躍している企業研究者等の事例を学びます。

●サイトビジット

企業の研究所等を訪問し、研究開発の現場を見学したり、社員と交流して企業活動の理解を深めます。

●個別相談

ひとりひとりの志望によりそったキャリア選択に関する相談の他、エントリーシートの添削や面接練習なども行っています。

■ 学習やその他の支援

●教養深化プログラムアゴラ

プログラム生の学習やディスカッション、交流に使える部屋が文学205室にあります。授業の参考文献やPCなども完備。オフィスアワーなどもここで行っています。

●教養深化MEETUP

毎月一回開催のプログラム生向けイベント。専門分野が異なる受講生同士の交流をしたりちょっとしたスキルや情報を提供します。年に一回程度貸切バスで現地見学（「遠足」）も行っています。

開講科目一覧

2024年度開講科目

【教養深化科目群】プログラム生限定科目

教養深化特別講義

授業題目	単位数	開講ターム	担当教員(所属)
Ⅰ 北海道学	1	冬	平川 全機(文学研究院)ほか
Ⅱ 北海道における プロテスタント・キリスト教史	1	秋	ラフェイ ミシェル(文学研究院)
Ⅲ 研究のフロンティアと 社会をつなぐ	1	夏	平川 全機(文学研究院)ほか

教養深化特別演習(基礎)

授業題目	単位数	開講ターム	担当教員(所属)
Ⅰ 古典を読む(1)	1	秋	谷古宇 尚(文学研究院)
Ⅱ 古典を読む(2)	1	夏	川口 暁弘(文学研究院)
Ⅲ 古典を読む(3)	1	冬	安酸 香織(文学研究院)
Ⅳ 古典を読む(4)	1	秋	水溜 真由美(文学研究院)
Ⅴ 文書作成と表現の技術	1	冬	加藤 重広(文学研究院)
Ⅵ 伝える媒の技術	1	夏	蔵田 伸雄(文学研究院)ほか
Ⅶ Brush Up Your Presentation Style!	1	冬	ラフェイ ミシェル(文学研究院)

教養深化特別演習(総合)

授業題目	単位数	開講ターム	担当教員(所属)
Ⅰ ニセコ・フィールドスタディ	2	夏	宮内 泰介(文学研究院)ほか
Ⅱ インターンシップ	2	通年	川口 暁弘(文学研究院)ほか
Ⅲ 修学旅行の企画を立てる	2	夏	川口 暁弘(文学研究院)

サイエンスリテラシー特別演習(基礎)

授業題目	単位数	開講ターム	担当教員(所属)
Ⅰ 科学と社会	1	秋	蔵田 伸雄(文学研究院)ほか 種村 剛(大学院教育推進機構)
Ⅱ 不確実性との向き合い方:リスク・ガヴァナンスの観点から	1	秋	大沼 進(文学研究院)
Ⅲ デジタルクリエイティブ基礎	1	夏	平川 全機(文学研究院) 近藤 祐爾(アドビ)

サイエンスリテラシー特別演習(総合)

授業題目	単位数	開講ターム	担当教員(所属)
Ⅰ デジタルクリエイティブ実践(1)	2	1学期	平川 全機(文学研究院) 朴 炫貞(高等教育推進機構)ほか
Ⅱ デジタルクリエイティブ実践(2)	2	2学期	平川 全機(文学研究院) 朴 炫貞(高等教育推進機構)ほか

【ジェネリックスキル科目群】

ジェネリックスキル特殊講義

授業題目	単位数	開講ターム	担当教員(所属)
キャリアマネジメントセミナー	2	1学期	吉原 拓也(先端人材育成センター)ほか

ジェネリックスキル特別演習

授業題目	単位数	開講ターム	担当教員(所属)
Ⅰ キャリア形成	1	通年	川口 暁弘(文学研究院) 吉原 拓也(先端人材育成センター)ほか
Ⅱ インターンシップ事前準備	1	1学期	川口 暁弘(文学研究院) 和田 肖子(先端人材育成センター)ほか

- 授業の詳細は必ずシラバスで確認してください。
- 「キャリアマネジメントセミナー」、「キャリア形成」の履修には、先端人材育成センターのWebサイトからHi-Systemへの登録が必要です。
- 「インターンシップ事前準備」の履修には、キャリアセンターの就職支援システムを利用します。キャリアセンターのWebサイトから利用の仕方を確認してください。

プログラム修了要件

教養深化特別講義および教養深化特別演習(基礎)から2単位以上、サイエンスリテラシー特別演習(基礎)から2単位以上、教養深化特別演習(総合)およびサイエンスリテラシー特別演習(総合)から2単位以上、ジェネリックスキル科目群から2単位以上を満たした上で、10単位以上取得することで教養深化プログラムを修了した証としてディプロマを授与します。

科目名		必要単位数	
教養深化科目群	教養深化特別演習(基礎) 教養深化特別講義	2	2
	サイエンスリテラシー特別演習(基礎)	2	
	教養深化特別演習(総合) サイエンスリテラシー特別演習(総合)	2	
ジェネリックスキル科目群		2	

- ディプロマ取得には2年間かかります。博士後期課程の方は2年を超えて履修したり、修士課程で取得した単位と合わせてディプロマを取得することもできます。
- ディプロマは修士課程の学生には修了時、博士後期課程の学生には修了要件を満たした年度末に授与します。
- 5単位以上を取得することで、一部履修を認定する履修証明書を発行します。
- 2025年度までは今年度と同等の開講を予定しています。2026年度以降については決まり次第お知らせします。

履修モデル

科目は自由に組み合わせて履修することができますが、ディプロマを取得するための履修モデルを例示します。

【さまざまな科目をバランスよく取りたい方】

	1年目				2年目			
	春ターム	夏ターム	秋ターム	冬ターム	春ターム	夏ターム	秋ターム	冬ターム
教養深化特別講義Ⅱ「北海道におけるプロテスタント・キリスト教史」			●	●				
教養深化特別演習（基礎）「古典を読む」				●	●			
教養深化特別演習（基礎）Ⅵ「伝える媒の技術」		●	●					
教養深化特別演習（総合）Ⅰ「ニセコ・フィールドスタディ」						●	●	
サイエンスリテラシー特別演習（基礎）Ⅱ「不確実性との向き合い方」			●	●				
サイエンスリテラシー特別演習（基礎）Ⅲ「デジタルクリエイティブ基礎」		●	●					
キャリアマネジメントセミナー	●	●						
ジェネリックスキル特別演習Ⅰ「キャリア形成」	●	●	●	●				

【諸分野の知を中心に深めたい方】

	1年目				2年目			
	春ターム	夏ターム	秋ターム	冬ターム	春ターム	夏ターム	秋ターム	冬ターム
教養深化特別講義Ⅰ「北海道学」				●	●			
教養深化特別講義Ⅲ「研究のフロンティアと社会をつなぐ」		●	●					
教養深化特別演習（基礎）「古典を読む」×2				●	●		●	●
教養深化特別演習（総合）Ⅲ「修学旅行の企画を立てる」						●	●	
サイエンスリテラシー特別演習（基礎）Ⅰ「科学と社会」			●	●				
サイエンスリテラシー特別演習（基礎）Ⅱ「不確実性との向き合い方」			●	●				
ジェネリックスキル特別演習Ⅰ「キャリア形成」×2	●	●	●	●	●	●	●	●

【コミュニケーション力を中心に高めたい方】

	1年目				2年目			
	春ターム	夏ターム	秋ターム	冬ターム	春ターム	夏ターム	秋ターム	冬ターム
教養深化特別演習（基礎）Ⅴ「文章作成と表現の技術」				●	●			
教養深化特別演習（基礎）Ⅵ「伝える媒の技術」		●	●					
サイエンスリテラシー特別演習（総合）Ⅰ・Ⅱ「デジタルクリエイティブ実践（1）（2）」					●	●	●	●
サイエンスリテラシー特別演習（基礎）Ⅰ「科学と社会」			●	●				
サイエンスリテラシー特別演習（基礎）Ⅲ「デジタルクリエイティブ基礎」		●	●					
キャリアマネジメントセミナー	●	●						

【ジェネリックスキルを中心に高めたい方】

	1年目				2年目			
	春ターム	夏ターム	秋ターム	冬ターム	春ターム	夏ターム	秋ターム	冬ターム
教養深化特別演習（基礎）Ⅶ「Brush-up Your Presentation Style!」				●	●			
教養深化特別演習（基礎）Ⅴ「文章作成と表現の技術」				●	●			
教養深化特別演習（総合）Ⅱ「インターンシップ」	●	●	●	●				
サイエンスリテラシー特別演習（基礎）Ⅱ「不確実性との向き合い方」			●	●				
サイエンスリテラシー特別演習（基礎）Ⅲ「デジタルクリエイティブ基礎」						●	●	
キャリアマネジメントセミナー	●	●						
ジェネリックスキル特別演習Ⅰ「キャリア形成」	●	●	●	●				
ジェネリックスキル特別演習Ⅱ「インターンシップ事前準備」	●	●						

2024年度
開講科目(1)

授業内容紹介

教養深化科目群:大学院共通授業科目 ～プログラム生限定科目～

まず、教養深化特別講義・教養深化特別演習(基礎)を2単位以上修得し、その後に教養深化特別演習(総合)を2単位以上修得する。

●教養深化特別演習(基礎) 各1単位

人文社会科学諸分野で扱うさまざまなテーマについて多角的に分析し、複合的に把握する能力を身につける。自分の考えを論理的に組み上げ表現する能力を身につける。

古典を読む

すぐれた作品・文献で多くの人に長く読み継がれてきたものとしての一般教養的な「古典」が文化や知性の源泉であるように、学術領域においても研究の根幹を形づくる、基本文献としての専門的「古典」がある。この授業では、人文科学の諸領域を中心に広義の「古典」と呼んでよいような文献を読み、新しい知的世界の扉を開く体験を重ねていく。4人の教員がそれぞれの観点から古典をセレクトして、授業を展開する。初回ガイダンスの後、各回1点ずつ古典を取り上げる(取り上げる主な作品は以下参照)。各回担当者が内容の概略を報告し、受講者全員でディスカッションを行う。最終回は総括を行う。

古典を読む(1)

オギュスタン・ベルク『風土の日本』
アンリ・フォシヨン『かたちの生命』
クロード・レヴィ＝ストロース『悲しき熱帯』
芳賀徹『絵画の領分―近代日本比較文化史研究』
李恢成『サハリンへの旅』
下村寅太郎『アッシジのフランシス研究』

古典を読む(2)

丸山眞男『日本の思想』
柳田国男『明治大正史世相編』
福田恒存『人間・この劇的なるもの』
白川静『漢字』
石川九楊『筆蝕の構造』
中村真一郎『文章読本』

古典を読む(3)

ヘロドトス『歴史』
マルク・ブロック『歴史のための弁明』
堀米庸三『ヨーロッパ中世世界の構造』
マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
エチエンヌ・ジュイヤール『ヨーロッパの南北軸―大空間の地理』
三浦綾子『海嶺』

2024年度
開講科目(2)

古典を読む(4)

ガッサーン・カナファーニー「ハイファに戻って」
大岡昇平『野火』
イプセン『人形の家』
金子文子『何がわたしをこうさせたか』
メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』
カズオ・イシグロ『日の名残り』

文書作成と表現の技術

実社会で求められる基礎能力の一つに、調査資料の作成・報告書や企画書の作成など文書の作成技能がある。専門論文の執筆でもこの種の文書の作成でも基礎にあるのは「達意の日本語を書く力」であるが、論文に一定の方法や決まりがあるように、個々の文書の作成方法にも方法論がある。その基礎となる考え方や方法論、表現技巧などを学ぶことで、広範な実務的技能の中心となる「書く力」を身につけることを目標とする。

【授業計画】
1.表現技巧とは何か、文書とは何か(ガイダンス)　2.文章表現の形式と表現法の基礎知識　3.構成と論理と説得力・感性と訴求力・冗長性の制御・メモの技術　4.日本語の特性と文章作成・必要な情報と表現(理解・提案・報告)　5.文書に求められる文体と叙法「私」のない叙述と「私」を際立たせる表現　6.比喩と引用、表現性と明晰性、例え話のリスク、挿話の技法、抑制と制御の構成　7.反論と共感、実用性と実務性、読み手に抱かせる感情を予測しながら書く　8.総括

伝える媒の技術

自らの専門とは異なる分野の専門的知識を、研究者のコミュニティの外部にわかりやすく伝える技能を実習的に涵養する。他の専門分野の知識を理解する質問力・取材力、それを他者に伝えるプレゼンテーションのスキルと文章力を身につける。さらに自分の専門的知識を明確に説明する力も身につける。また自分が理解した内容を効果的に伝えるためのスライド作成技術も実践的に身につける。

【授業計画】「専門知の面白さを伝えるプレゼン術」
1.自分の専門知をわかるように加工する(ガイダンス)　2.自分の専門知について説明する(プレゼンテーション)　3.自分の専門知を活用するための視点と技法　4.他の専門知を理解するための取材術と質問技法(インタビュー)　5.他の専門知を正確に理解し、まとめるための実習　6.他の専門知をうまく伝えるための構成と技法、外に広げるための実習(スライド作成)　7.他の専門知を効果的に伝えるための説明術と話す技法(プレゼンテーション)　8.総括・レビュー

Brush Up Your Presentation Style!

どんな言語でもプレゼンテーションするのは難しいと思う。内容とビジュアルの両面から、聞き手の興味を引くプレゼンテーションを作成してみる。聴衆のことを考えることが、効果的なプレゼンテーションの第一歩になる。また、プレゼンテーションの英語について、わかりやすい言葉で内容を説明する方法についても考える。最後に、「習うより慣れろ」ということで、プレゼンテーションの練習をする。

【授業計画】
1.自己紹介、授業内容、時間割　2.効果的なプレゼンテーションとは?　3.プレゼンテーションの方法　4.プレゼンテーションの構成　5.プレゼンテーションのための英語　6.聴衆の特定とプレゼンテーションのカスタマイズ　7.効果的なスライドを作成する　8.最終プレゼンテーション

2024年度
開講科目(3)

●教養深化特別講義 1単位

文系・理系を問わず踏まえておくべき、実社会やアカデミアで貢献する上で期待される、幅広く、奥深いリベラルアーツの基盤的素養を習得する。

北海道学

北海道について俯瞰的に捉え、多角的に理解できる基盤的能力を会得できるレベルに到達することを目指す。北海道の特質は、地域固有のものもあるが、他地域や他国と共通のものや拡張的に適用可能な課題も多く存在するので、具体的な事例をもとにそれを普遍的な問題意識として議論できる能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】
1. 北海道・日本・世界(北海道をどう把握するか)　2. 歴史学からみた北海道　3. 交通からみた北海道　4. 教育学からみた北海道　5. 地域史からみた北海道:十勝地方を事例に　6. 北海道とこれからの海業　7. 北海道の民族・文化　8. ワインから拓く北海道の未来　各回の講師はそれぞれの領域を専門とする学内外の教員・研究者が務める。

北海道におけるプロテスタント・キリスト教史

北海道に焦点を当て、日本のプロテスタント・キリスト教について見ていく。一次資料を通して、日本人、特に札幌農学校の学生がどのようにキリスト教を日本文化・生活に調和させたかを理解する。また、日本の他の地域のキリスト教徒にも目を向け、キリスト教徒が日本にどのような影響を与えたかを見ていく。

【授業計画】
1.自己紹介、授業内容、時間割　2.キリスト教の概要　3.日本へのプロテスタント・キリスト教の伝来　4.札幌農学校とプロテスタント・キリスト教　5.札幌の歴史上の重要人物　6.日本におけるプロテスタント・キリスト教の活動　7.プレゼンテーション　8.まとめと最終討論

研究のフロンティアと社会をつなぐ

北大の最先端の研究者から自らの研究と社会や異分野との繋がりについて講義を受け、研究と社会や異分野との関係、その社会的な意義や社会貢献について理解を深める。それを基盤にして自らの研究と社会や異分野との関係、その社会的な意義を説明できるようになる。

【授業計画】
1. 現状不満国が戦争を引き起こすとき――戦前日本の事例を社会とつなぐ(前田亮介先生・法学研究科)　2. がんへの動体追跡放射線治療研究と社会・異分野とのつながり(白土博樹先生・医学研究院)　3. 古典・神話研究と社会(金沢英之先生・文学研究院)　4.「単細胞生物の知」なる研究は社会や異分野とどうつながれるか(中垣俊之先生・電子科学研究所)　5. 歴史は社会の役に立つのか―日本流通史研究の経験から(満薗勇先生・経済学研究院)　6. 独自の免疫、炎症コンセプトを異分野融合で新規予防、治療戦略につなぐ(村上正晃先生・遺伝子病制御研究所)　7. ステレオタイプを越え、ナポレオン研究の現在を社会へ(松嶌明男先生・文学研究院)　8. 非対称性が拓く科学技術の新地平(網塚浩先生・理学研究院)

●教養深化特別演習(総合) 各2単位

基礎で修得した能力を、具体的な事例や自身の研究に関連づけた実践を通して向上させ、全体を総合する力を身につける。共同作業を通じて相互理解力、チーム形成力、信頼構築力、調整力を身につける。

ニセコ・フィールドスタディ※

ニセコ地区で実施する1泊2日のフィールドスタディ。事前学習+現地調査+記事作成からなる。地域の自然・歴史・文化・社会・経済などをグループワークを通じて総合的に学ぶ。問題解決型の思考力、共同作業に欠かせない相互理解力・チーム形成力・信頼構築力・調整力が身につく。(集中講義)

修学旅行の企画を立てる※

中高生の修学旅行を企画する教員として、修学旅行の計画を立ててみる。もちろん、修学旅行で何を見て、何を体験するか、どのように見聞を広げるかなど、個々の旅程に説明すべき意義が必要で、かつ、安全性・効率性・経済性など両立させるべきいくつもの特性を現実的に考えなければならない。構想力と独自性、説明力と企画力などを養う演習。(集中講義)

インターンシップ

官公庁、企業が実施するインターンシップに参加することで、修士課程、博士後期課程修了後のキャリア形成について具体的な将来像を描くことができる。修士課程、博士後期課程で学修・研究する事柄を社会で活かす可能性について反省することで、自己の学修・研究の意義を明確に自覚することができる。1日8時間労働で5日以上のインターンシップに参加する。各自のインターンシップ体験を履修者および教養深化プログラム参加者(次年度履修予定者)に対してプレゼンテーションする。

※教養深化特別演習(基礎)の単位を取得してから履習すること。

2024年度
開講科目(4)

●サイエンスリテラシー特別演習(基礎) 各1単位

数理的思考やさまざまなデータの分析・活用方法を学修するとともに、北大で行われている自然科学研究の最先端の知に触れ、自らの専門的知識に基づきながら、自然科学を理解し的確に伝えるスキルを身につける。

科学と社会

人文社会科学と自然科学との接点を認識し、さらに自然科学の研究内容を伝えていくために、人文社会科学の素養をどのように用いればよいのかを理解する。北大を代表する科学者にインタビューし、自分の専門的知識をもとにして「科学と社会」との関わりについての記事を書く。特に科学技術について自分の理解した内容を的確に伝えるスキルと「質問する力」を身につけることを目標にする。

デジタルクリエイティブ基礎

プレゼンテーション、各種デザインから写真・動画投稿にいたるまで、デジタルコンテンツのビジュアル表現に必要とされる基礎技術を理解し、実際に活用することを目標にする。授業は1つのテーマにつき、講義1コマと演習・実習1コマで進めていく。

1.ビジュアル表現概論、
　構成+レイアウト+造形+色彩
2.画像処理
3.タイポグラフィー
4.映像制作

不確実性との向き合い方:リスク・ガヴァナンスの観点から

社会はリスクに満ちている。リスクは常に不確実性を伴うため、不確実性をどのように判断するかが重要である。不確実性の判断には、正確な情報の収集・理解は必要だがそれだけでは不十分である。情報の背後にある条件や、そこにない情報は何かを見抜く俯瞰力も求められる。本講義では、リスク・ガヴァナンスの考え方から、リスクに向き合い判断するとはどういうことかを考え、実践できる道筋を身につけることを目的とする。具体的なリスクを巡る諸問題への省察と洞察ができる力を身につけるというリスクリテラシーの向上が期待される。

●サイエンスリテラシー特別演習(総合) 各2単位※

具体的な地域課題を探求し、その地域課題に即したビジュアル表現を制作する。このことを通して、自らの専門性を通して地域課題を探求し、さらにそれを第三者に視覚的に提示する能力を養うことを目標とする。

デジタルクリエイティブ実践(1)

同一年度に開講されるデジタルクリエイティブ実践(2)とセットで履修することを前提に本授業はその前半として、具体的な市町村(2024年度は喜茂別町を予定)を対象として地域課題について、文献調査、現地視察、インタビューなどを通して理解する。それに基づき、地域課題の構造や解決策などを視覚的に表現する動画の企画書を作成する。(集中講義)

デジタルクリエイティブ実践(2)

同一年度に開講されるデジタルクリエイティブ実践(1)とセットで履修することを前提に本授業はその後半として、具体的な市町村(2024年度は喜茂別町を予定)を対象として地域課題の構造や解決策などを視覚的に表現する動画を作成する。これには現地での視察、インタビューなど取材とその後の編集のプロセスが含まれる。(集中講義)

※サイエンスリテラシー特別演習(基礎)または教養深化特別演習(基礎) の単位を取得してから履習すること。

2024年度
開講科目(5)

ジェネリックスキル科目群:大学院共通授業科目

●ジェネリックスキル特殊講義 2単位

社会のさまざまな仕事環境において共通して必要となる考え方や実践的なスキル(マーケティング、マネジメント、プレゼンテーション等)を身につける。

※先端人材育成センターが開講する「大学院共通授業科目/水産科学院共通科目/生命科学院専門科目:キャリアマネジメントセミナー」を履修登録すること。Hi-System上で申込が必要。

キャリアマネジメントセミナー

日本を代表する企業の開発担当者を講師に招き、研究開発の成果を商品化する具体的実例から、様々な仕事環境において必要となるジェネリックスキル(マーケティング、マネジメント、プレゼンテーション、リーダーシップ、企画書の書き方等)を学ぶ全15回の実践的な授業。大学と企業での研究活動における考え方の違いや、基礎研究から出発したものがどのように商品化されるか、イノベーションはどのようにして起きるのか、など新たな自分を発見する参加型セミナー。

●ジェネリックスキル特別演習 1単位

キャリア形成に必要な知識と技能について学修するとともに、企業等の第一線で活躍するゲストスピーカーの講演等を通じて、学位取得後のキャリア形成の視野を広げ、自身のキャリアの可能性を考える。また、インターンシップに参加するための事前準備もおこなう。

※「キャリア形成」・・・先端人材育成センターが主催する指定セミナーを受講すること。Hi-System上で申込が必要。
※「インターンシップ事前準備」・・・キャリアセンターが主催する指定セミナーを受講すること。就職支援システム上で申込が必要。

キャリア形成

キャリア形成に必要な知識とスキル(知的財産、交渉学、アントレプレナーシップ、プロジェクトファシリテーションなど)を学ぶ。また、博士号を取得して企業の第一線で活躍する講師たちから、アカデミックポスト以外のキャリア形成の可能性を学ぶ。(集中講義)

【指定セミナー】
単位認定は下記4種のうち3種以上受講
・ Advanced COLA
・ キャリアパス多様化支援セミナー I・II・III

インターンシップ事前準備

修士課程・博士後期課程修了後のキャリア形成に備えてインターンシップに参加する際の、事前準備を行う。準備の内容は心構えやマナーの講習はもとより、インタビューやプレゼンテーションの実践を含む。上記の準備を経てインターンシップに臨むことで、学生は円滑にキャリア形成を行うことができる。

単位認定は下記4種のうち3種以上受講
キャリアセンターが主催するインターンシップ・プレ研修①、②、③、④

教養深化プログラム 2024年度 時間割

開講形式や教室は今後変更される可能性があるので担当教員からのアナウンスに留意すること

・講義題目
・担当教員名
・開講形式/時間割番号

夏ターム【6/4(火)～6/6(木)・6/11(火)～8/2(金)】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1講目		・教養深化特別講義Ⅲ ・平川 全機 ほか ・対面/101180			・教養深化特別演習(基礎)Ⅱ ・川口 暁弘 ・オンライン/101165
2講目					
3講目					
4講目					・サイエンスリテラシー特別演習(基礎)Ⅲ※ ・平川 全機 ほか ・対面/101163
5講目					・サイエンスリテラシー特別演習(基礎)Ⅲ※ ・平川 全機 ほか ・対面/101163

※6/28・7/5・7/12・7/19に実施

集中講義

科目名	時間割番号	担当教員	開講期	開講日程	開講教室
キャリアマネジメントセミナー	注参照※※	吉原 拓也 ほか	1学期		オンデマンド(毎週月配信)
ジェネリックスキル特別演習Ⅰ	101173	川口 暁弘 ほか	通年	6月～12月	対面・オンライン
ジェネリックスキル特別演習Ⅱ	101174	川口 暁弘	1学期	5月～7月	対面・オンライン
教養深化特別演習(基礎)Ⅵ	101169	蔵田 伸雄 ほか	夏	9/3～5	対面・オンライン
教養深化特別演習(総合)Ⅰ	101170	宮内 泰介 ほか	夏	8/28～30ほか	対面
教養深化特別演習(総合)Ⅱ	101171	川口 暁弘 ほか	通年	各自の日程・発表は12月	対面・オンライン
教養深化特別演習(総合)Ⅲ	101172	川口 暁弘	夏	土日を利用して開講	対面・オンライン
サイエンスリテラシー特別演習(総合)Ⅰ	101178	平川 全機 ほか	1学期		対面
サイエンスリテラシー特別演習(総合)Ⅱ	101179	平川 全機 ほか	2学期		対面

※※所属・希望により異なる。101225(大学院共通授業科目)、水産科学院共通科目、生命科学院専門科目は各自で確認のこと。

秋ターム【10/1(火)～11/27(水)】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1講目					・教養深化特別演習(基礎)Ⅰ ・谷古宇 尚 ・対面・オンライン/101164
2講目			・サイエンスリテラシー特別演習(基礎)Ⅰ ・蔵田 伸雄 ほか ・対面・オンライン/101161	・教養深化特別演習(基礎)Ⅳ ・水溜 真由美 ・対面/101167	
3講目					
4講目			・教養深化特別講義Ⅱ ・ラフェイ ミシェル ・対面/101177		
5講目			・サイエンスリテラシー特別演習(基礎)Ⅱ ・大沼 進 ・対面/101162		

冬ターム【11/28(木)～1/31(金)】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1講目		・教養深化特別演習(基礎)Ⅴ ・加藤 重広 ・オンライン/101168			・教養深化特別講義Ⅰ ・平川 全機 ほか ・対面・オンライン/101175
2講目					
3講目					
4講目			・教養深化特別演習(基礎)Ⅶ ・ラフェイ ミシェル ・対面/101176	・教養深化特別演習(基礎)Ⅲ ・安酸 香織 ・対面/101166	
5講目					

■ 学びの特徴

【人文学と人間科学諸分野の総合的な学修プログラム】

研究室単位の専門科目の学修とともに、人文社会科学の諸分野を横断する学修プログラムを発展的に学び「考える力」「書く力」「読む力」「発表する力」「総合する力」をレベルアップします。

【文理融合・学際的な教育プログラム】

数理的思考やデータの分析・活用方法を学ぶとともに、自然科学の最先端の知に触れ、自らの専門知識をベースに自然科学への理解が深まり、文理の枠を越えた学際的な力が身につきます。

【社会と繋がる実践を重視したプログラム】

先端人材育成センター、CoSTEPと連携した実践的プログラムにより、高度なジェネリックスキルが身につきます。

■ 想定されるキャリアパス

- 教養深化プログラムで身につく力は、社会のあらゆる職業で役に立つ力です。各自の専門分野の研究をさらに深めるとともに、人文社会科学諸分野の総合的な学修と、社会で役立つジェネリックスキルを学修することにより、社会のさまざまなセクターで、高度な専門知識を有し即戦力となる人材として活躍が見込まれます。
- 博士後期課程進学者や、将来アカデミックポストを目指す人にとっても、学際的な研究視野を培い、今後の研究活動に役立つ知識とスキルを身につけることができます。

■ 指導体制・専門教育との関係・就職

- 専門科目は指導教員が指導、教養深化プログラムはプログラム教員が担当し、両者の連携により、無理のない履修計画を確保します。
- セメスター科目、集中講義を多く取り入れ、就職活動やインターンシップに配慮したカリキュラムを設定します。
- 専門科目とできるだけ重ならない時間帯に開講するよう配慮します。
- 各大学院の規定により教養深化プログラムで取得した単位の一部を大学院共通授業科目として修了要件の一部とすることができます。
- 1科目1単位から受講することができます。5単位以上取得することでプログラムの履修を証明をします。規定の10単位以上取得することでディプロマを授与します。
- 留学生も受講することができますが、授業はすべて日本語で行われます。日本語能力試験でN1取得程度の日本語能力が必要です。
- 先端人材育成センター所属のキャリア担当の教員を中心に学内外と協力し、きめ細やかな就職支援を行います。（キャリア相談、インターンシップ紹介等）
- 博士後期課程に進学する人にも、今後の研究活動に有益な知識とスキルを提供します。
- 博士後期課程の学生を支援する「DX博士人材フェローシップ制度」の採用審査において、教養深化プログラムを受講すること/修了していることは評価の対象となります。

お問い合わせ

教養深化プログラムについて質問がある場合は、以下の担当教員に相談してください。

・ 教養深化プログラム事務局　✉ cuenp@let.hokudai.ac.jp

・ 平川 全機（文学研究院・教養深化プログラム担当）　✉ hirakawa@let.hokudai.ac.jp

【教養深化プログラムWEBサイト】
https://cep.let.hokudai.ac.jp

【Facebook】@cuenp.hokudai　【X】@cuenp_hokudai　【Instagram】@cuenp_hokudai